

平成 23 年度第 2 回獣医学術功績者選考委員会の会議概要

I 日 時 平成 24 年 2 月 4 日 (土) 8:30 ~ 9:00

II 場 所 札幌コンベンションセンター・202 会議室

III 出席者

【委員長】 酒井 健夫 日本獣医師会学術担当理事（日本大学生物資源科学部教授）

【産業動物部門委員】

明石 博臣 東京大学大学院農学生命科学研究科教授
齋藤 康倫 千葉県農業共済組合連合会中央家畜診療所長
佐藤 繁 岩手大学農学部教授
澤田 勉 大阪府立大学名誉教授
○中尾 敏彦 元山口大学農学部教授

【小動物部門委員】

○佐藤れえ子 岩手大学農学部教授
西村 昌数 帯広畜産大学名誉教授
日笠 喜朗 鳥取大学農学部教授
木俣 新 木俣動物病院院長
丸尾 幸嗣 岐阜大学応用生物科学部教授

【公衆衛生部門委員】

○石黒 直隆 岐阜大学応用生物科学部教授
林 賢一 滋賀県衛生科学センター所長
丸山 総一 日本大学生物資源科学部教授
山田 章雄 国立感染症研究所獣医科学部部長
山本 茂貴 国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部部長

【本 会】 矢ヶ崎忠夫（専務理事）

IV 議 事

- 1 平成 23 年度第 1 回獣医学術功績者選考委員会の検討結果
- 2 平成 23 年度日本獣医師会獣医学術賞「獣医学術学会賞」の選考

V 会議概要

1 平成 23 年度第 1 回獣医学術功績者選考委員会の検討結果

酒井委員長から、昨年 11 月 16 日開催の平成 23 年度第 1 回獣医学術功績者選考委員会において選考が行われた結果について確認を行い、異議なく了承された。

2 平成 23 年度日本獣医師会獣医学術賞「獣医学術学会賞」の選考

酒井委員長から、獣医学術賞「獣医学術学会賞」の選考については獣医学術賞選考要領により、平成 23 年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（北海道）において講演された地区学会長賞受賞講演が対象となることが説明され、本年度の獣医学術賞「獣医学術学会賞」は以下のとおり決定した。

【 産業動物部門 】

〔 獣医学術学会賞 〕

サラブレッド新生仔管理における APGAR スコアを用いた健康状態評価の有用性の検討
津田朋紀（ノーザンファーム）、他

＜選考理由＞ 本研究は、人の新生児の健康状態の把握に古くから利用されている APGAR スコア方法を馬の新生子の健康状態の評価に応用したものである。実際には6年間に亘り 2,000 例以上の新生子のデータを用いて、その応用価値が高いことを明らかにしており、産業動物獣医学の発展に寄与するところが非常に大きいことを評価した。

【 小動物部門 】

〔 獣医学術学会賞 〕

犬の肝外性門脈体循環シャントの新しい分類法と最適な血管閉鎖部位の検討
浅野和之（日本大学・獣医外科）、他

＜選考理由＞ 犬の肝外性門脈体循環シャントは小型犬に多発し、日本が中心となって様々な病態の解明や診断治療法を開発してきた。本研究は血管造影 CT 検査を加えることによって、多くの門脈体循環シャントを系統的に分類し、治療方針を正確に決定できるようにしたものであり、小動物獣医学の発展に寄与することが著しく高く、この点を評価した。

【 公衆衛生部門 】

〔 獣医学術学会賞 〕

馬肉を原因食品とする食中毒病因物質の解明とその予防法

新井陽子（埼玉県食肉衛生検査センター）、他

＜選考理由＞ 本研究は、馬肉の原因不明の食中毒から出発したものであり、原因菌として *Sarcocystis fayeri* を同定した。特に、馬肉中の分布を詳細に調査し、下痢の原因が *Sarcocystis* 由来の毒素であることを、ウサギ腸管結紮ループを用いて同定した。さらに、予防法についても言及しており、公衆衛生上、重要な知見をもたらした点を高く評価した。

VI まとめ

酒井委員長から次のことが確認された。

- (1) 平成 23 年度第 1 回委員会における検討結果と併せ、本年度の日本獣医師会獣医学術賞受賞業績は以下のとおり決定した。

【産業動物部門】

〔獣医学術奨励賞〕

Two-step vaccine program の牛ウイルス性下痢ウイルス 2 型に対する有用性評価
加藤 肇 (根室地区農業共済組合西春別支所)、他

〔獣医学術学会賞〕

サラブレッド新生仔管理における APGAR スコアを用いた健康状態評価の有用性の検討
津田朋紀 (ノーザンファーム)、他

〔獣医学術功労賞〕

産業動物獣医内科学における学術の業績とその普及実績
内藤善久 (岩手大学・名誉教授)

【小動物部門】

〔獣医学術奨励賞〕

中/内耳疾患を疑う犬における聴性脳幹誘発反応の有用性の検討
長村 徹 (大阪府開業)、他

〔獣医学術学会賞〕

犬の肝外性門脈体循環シャントの新しい分類法と最適な血管閉鎖部位の検討
浅野和之 (日本大学・獣医外科)、他

〔獣医学術功労賞〕

小動物における再建外科に関する研究と普及 田中茂男 (前日本大学・教授)

【公衆衛生部門】

〔獣医学術奨励賞〕

長崎県沿岸における *Vibrio vulnificus* の分布と環境因子
山崎省吾 (長崎県環境保健研究センター)、他

〔獣医学術学会賞〕

馬肉を原因食品とする食中毒病因物質の解明とその予防法
新井陽子 (埼玉県食肉衛生検査センター)、他

〔獣医学術功労賞〕

有害真菌の食品危害と病原性因子に関する研究
高鳥浩介 (前国立医薬品食品衛生研究所・部長)

- (2) なお、日本獣医師会獣医学術賞の発表と賞の授与は、本日午後 1 時 15 分から同会場において開催することが事務局から報告された。